

# スミルハン・ラディック

01 | CB004 || **NAVE:美術・舞台芸術センター** | スミルハン・ラディック || ユンガイ、未来を再建する | ジョヴァンナ・クレスピ

# パナマと日本

03 | CB018 || **バーミンガム=ロングウォーター邸** | パトリック・ディロン/ ENSITU || 時間の継続性 | アウグスタ・マン

04 | CB028 || **cnest** | 猿田仁視/ キューボデザイン建築計画設計事務所 || 木々に囲まれた家 | アウグスタ・マン

# 特集:ポルトガル

06 | CB038 || **なぜポルトガルか** | CASABELLA 編集部

07 | CB042 || **ポルトガル・テレコム・データセンター** | ジョアン・ルイス・カリーリョ・ダ・グラサ || 地形学的建築 | マルコ・ムラツァーニ

09 | CB050 || **リナース・デル・バレスの文化・演劇センター** | アルヴァロ・シザ + ARESTA || 音楽が終わる時 | アルベルト・フスター

11 | CB058 || **公衆衛生イノベーション/リサーチ研究所** | ジョアン・ペドロ・セロディオ + イザベル・フルタド || 急進的簡素さの建築 | マルコ・ムラツァーニ

# スイスの謎

13 | CB068 || **スイスの謎** | フェデリコ・トランファ

13 | CB070 || **1/5 — ティーチーノ** | フェデリコ・トランファ

15 | CB074 || **ルツェルンの学生寮** | ドウリッシュ + ノッリ

# ブック・レビュー:『レオニド・ソパヴロフ』

16 | CB088 || **アンナ・ブロンヴィツカヤ** 編 [エレクトラ 2015年] || **レオニド・ソパヴロフ**:レオニドフの弟子から「ソヴィエト・モダニズム」の解釈者へ | アレッサンドロ・デ・マジストリス

857 | CASABELLA  
JAPAN

10<sup>th</sup> カザベラ  
JAPANESE  
EDITION

# 身体はどのように建築に現出するか/具体化の建築術 [後篇]

20 | CASABELLA JAPAN リーディング || ダリボル・ヴェセリー

# ブリコラージュ・デザイン・方法・組織——吉阪隆正に学ぶ

24 | CASABELLA JAPAN リポート || みぞぶち かずま

スミルハン・ラディック

「NAVE:美術・舞台芸術センター」

設計=スミルハン・ラディック

ユンガイ、未来を再建する ジョヴァンナ・クレスピ

参照 | 本誌 pp.4-17

1835年まで、サンティアゴ市の西にあるパリオ・ユンガイは、地主ホセ・サンティアゴ・ボルタレス・ララインの広大な荘園だった。そのラインが死ぬと、350ヘクタール以上の土地は息子たちの間で分割相続され、さらに彼らからデベロッパに売却された。バルパライソに向かう街道沿いの商業活動が盛んになるに従って、マポチョー帯の人口は増える一方で、ここは早くからサンティアゴ周辺で最初の計画的拡張地区になった。宅地開発の当初から、ユンガイには知識人や文化人が住むようになった。その中にはアルゼンチンから亡命してきた政治家ドミンゴ・ファウスティノ・サルミエント、フランス人地質学者のペドロ・ホセ・アマド・ピシス、ポーランド出身の学者イグナシオ・ドメイコもいる。新興中流層出身の知識人たちはこの地に強い文化的刺激を与えることに成功し、パリオ・ユンガイは首都圏で最も活動的な地区のひとつとして知られるようになった。

地区の都市的性質、数多くのリパブリカン様式の建物、オスペディア・サン・ラファエル、国立教員養成学校、精神病院といった施設——首都のこの地区に建てられたのも偶然ではない——は、経済的繁栄の時代の証人であり、サンティアゴの教育的、文化的、政治的、制度的発展に貢献した人々の文化度の高さの証拠である。近年は移民——ペルー、コロンビア、ハイチから——の増加とそれに伴う人口過密や不安定な生活環境の発現が、1985年、2010年、さらに数ヶ月前の地震の後に多くの建物が置かれている危険な状態と相まって、パリオ・ユンガイの性格と文化状況を強く揺さぶった。

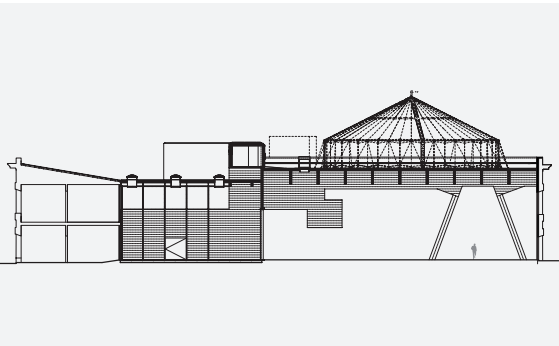
地区の諸組織が進めた働きかけのおかげで、ユンガイは保護保全すべき遺産と明言できるようになった。これによって、明らかな倒壊の危険に促されて歴史ある都市ブロックを丸ごと不法に取り壊すような、不動産業者の投機的な動きが阻止された。パリオ・ユンガイの中枢における美術・舞台芸術センター（NAVE）のためのスミルハン・ラディックによる建設プロジェクトは、まさにこうしたコンテキストのなかで実行された。NAVEは、ダンス、音楽、演劇、その他の広い関連分野に関わる創作と研究を支援・育



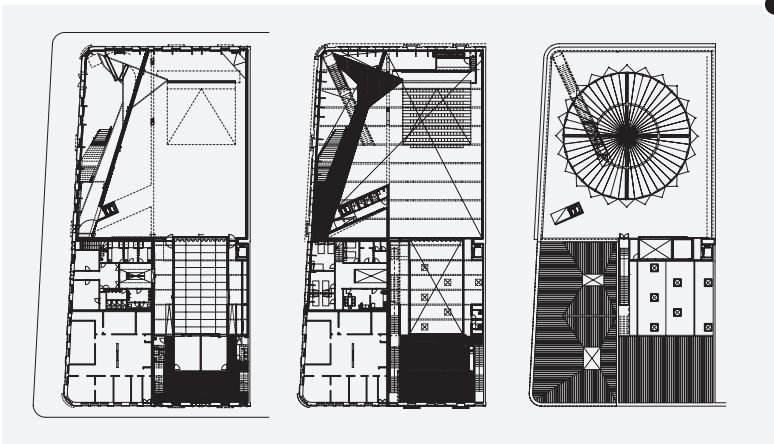
屋上に据えられたテント



東側外観



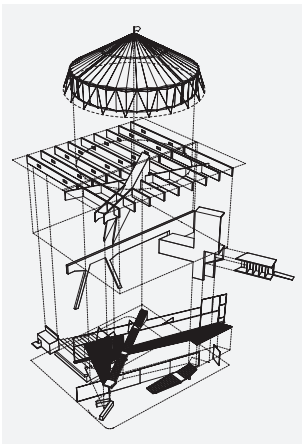
断面図



1階平面図

中間階平面図

屋階平面図



アクソメトリック

成することを使命に掲げ、多様な芸術のあいだに対話を開こうとしている。

スミルハン・ラディックの設計案は、20世紀初頭の歴史的建造物の残骸から生まれた。古い建物には2006年

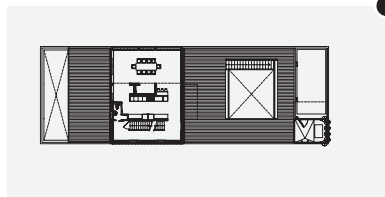
の火事と2010年の大地震の傷跡が消し去りがたく残されている。部分的に倒壊せず残った唯一の構造物が、リベルタード、コンパニア・デ・ヘスース、サンタ・マルタを含むブロックの大部分に当たる建物のファサードだった。

無断での本書の一部または全体の複写・複製・転載等を禁じます  
copyright©2016 Arnoldo Mondadori Editore copyright©2016 Architects Studio Japan

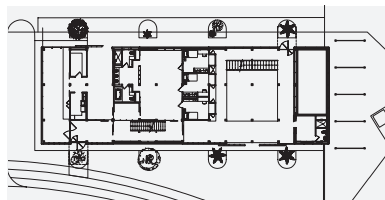


## パナマと日本

作品：パーミンガム=ロングウォーター邸  
設計：パトリック・ディロン／ENSITU, S.A.  
構造：O. M. Ramirez y Asociados, S.A.  
機械・電気設備：Luis Carlos Gotti  
上下水道設備：Maria Benedito  
施工：José Velarde  
建築主：Mr. Eldredge Bermingham,  
Ms. Chimene Longwater  
規模：屋外面積 300 m<sup>2</sup> /  
延床面積 650 m<sup>2</sup> (屋内居住空間)  
スケジュール：設計 2007 年 /  
施工 2007-09 年  
所在地：Gamboa, Panama



2階平面図



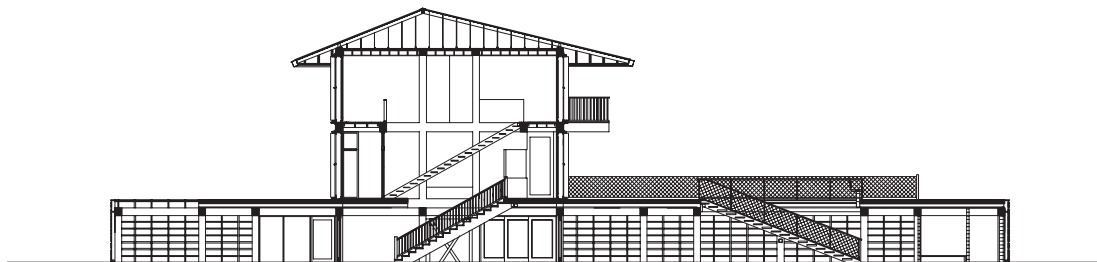
1階平面図



バルコニーよりパティオとプールを見る



上階の西側ファサード



断面図

無断での本書の一部または全体の複写・複製・転載等を禁じます  
copyright©2016 Arnoldo Mondadori Editore  
copyright©2016 Architects Studio Japan

「cnest」

設計＝猿田仁視／キューボデザイン建築計画設計事務所

### 木々に囲まれた家 アウグスタ・マン

参照 | 本誌 pp.28-37

神奈川県大磯町は、東京の南東約 60 km に位置する海沿いの有名な保養地で、気候の温暖さと充実した海水浴施設で人気が高い。その歴史と場所の良さは時とともに知られるところとなり、8 人もの首相経験者が自分の休暇住宅を建てる場所として選んだほどである。ある建築家をして、そこに生活と仕事の場を建てさせる決め手となったのも、同じ魅力と思われる。

建設地は海岸から約 1 km 離れた——大磯海岸は特に夏季は非常に賑わう——、海拔 45 m の高台にある。住宅が計画された小さな敷地条件——面積 300 m<sup>2</sup> 余り、最大傾斜度 70 度の崖の上にある——は岩礁のイメージを想起させ、不便ではあるが魅力に溢れる。自生する木々に囲まれ、遠くにはきらきらと輝く太平洋の水面が見える。こうした場で住宅 (3 人家族) と付属のアトリエ (2 人の協働者用) を実現するアイデアは、既存の樹木を手つかずのまま残し、それらを建物を浸す情景に変える可能性と密接に結びついた。建物の原初のイメージは鳥の巣箱で、片方は地面に置かれ他方は木々の梢の下に吊られた、2 つの「小さな鳥小屋」から構成される。狭小で切り立った崖という地形の特性から生じる諸問題を克服するための構造的な解として、地中に直径 1 m のパイルを打ち込んだ鉄筋コンクリート造の水槽のようなものが実現された。この「平衡錘」に打ち込んだ鉄筋コンクリートのキャンティレバー (平面: 4 × 13 m) が空中に浮かび、樹木の「枝」のように傾けた一連の細いスチールの斜材で支えられている。

この堅固な構造の上に、2 つのヴォリュームが外階段と内部通路を挟んで隣り合わせに展開する。軽い木造でできたヴォリュームは赤杉材で覆われ、急勾配の屋根が載せられている。このようにして「鳥の巣箱」は高低差 14 m の敷地に据えられた。窓からは鳥のような俯瞰的視点で遠くの風景が望める——また窓と同じ高さに飛ぶ鳥が見える。自然模倣を排しつつも自然現象に共感する姿勢をよく表したこの建物は、何よりも、典型的に日本的なもうひとつの特質に対する建築家の感性を示している。すなわち、谷崎潤一郎が言う、光の対極としてのみならず、美





スケッチ



地階内部



南側ファサード



リビング・エリア



北側より見る

無断での本書の一部または全体の複写・複製・転載等を禁じます。  
copyright©2016 Arnoldo Mondadori Editore  
copyright©2016 Architects Studio Japan